

## 「施策5-2 確かな学力の定着と独創性や表現力の育成」の取組状況について

### ◆ 主な数値目標：

- 県学習状況調査における通過割合（正答率が設定正答率以上の問題数の割合） H27目標 75.0% → 実績 75.1%
- 国公立大学希望達成率（公私立、全日制：進学者数/3学年11月時点での進学希望者数） H27目標 53.0% → 実績 53.8%

#### <平成27年度の取組状況>

- ・30人程度学級を小学校5年生に拡充するとともに中学校の配置基準を改善し非常勤講師3名が配置されている中学校については1名を臨時講師に変更
- ・全国学力・学習状況調査の分析結果を反映した「学校改善支援プラン」を作成し全市町村教育委員会及び小・中学校に配布
- ・県学習状況調査の実施及び各学校が調査結果を活用するための分析システムの提供
- ・スーパーサイエンスハイスクール指定校において合同発表会、数学オリンピックセミナー等を開催
- ・高校間連携による学力向上パートナーシッププロジェクトの実施(県内3地域において3校ずつ連携モデル校に指定し合同教員研修、勉強合宿等を実施)
- ・英語教育に関し本県独自の指導目標として提示した「あきた型学習到達目標リスト」の改善及び活用
- ・イングリッシュキャンプ、スーパーイングリッシュキャンプ、高校生グローバルサマースクールの実施(写真上)
- ・特別支援に関する専門家・支援チームによる巡回相談(402回)、高等学校特別支援隊による巡回相談(143回)の実施
- ・盲学校サテライト教室を鹿角市・大館市・大仙市・仙北市・横手市の5地区で52回、聾学校サテライト教室を北秋田市・大仙市の2地区で59回実施

#### <平成27年度「提言」に対する平成28年度の取組状況>

- ・30人程度学級の小学校6年生への拡充(小・中学校全学年での実施)
- ・学年及び教科の枠を超えた検証改善サイクルの一層の充実を図るため、小・中学校の県学習状況調査に全国学力・学習状況調査のB問題のように知識の活用を問う問題や、高校入試で課題となった問題の類似問題等を出题
- ・高校段階での基礎的な学習の達成度の把握と学習指導の改善・充実に向けた高等学校学力・学習状況調査の実施(10月25日)と、小・中学校の結果と連携させるなど分析結果の活用

#### <今後の主な重点施策>

- ・児童数の減少による単学級化に伴う当該単学級内の児童数増加に向けた、非常勤講師の配置などの支援の充実
- ・中学校における無理のない学級担任の配置のための人的措置の改善(非常勤講師の配置を常勤講師に振り替え)
- ・授業改善の推進を図るため、検証改善委員会や学力向上フォーラムにおいて文部科学省が提唱するアクティブ・ラーニングの視点から「秋田の探究型授業」を検証(写真下)
- ・学校訪問、キャリア教育実践モデル校事業などを通じたキャリア教育の視点に立った確かな学力の育成
- ・県独自の高校生学力・学習状況調査等による生徒の学力・学習状況の等の分析及び活用
- ・高等学校ICT活用研究協議会の開催によるICTを活用した授業実践の共有化、情報活用能力等を高める教育の推進
- ・英語の外部検定試験において、全中学3年生と高校2年生の1/3程度を対象に受験料1回分を全額補助
- ・イングリッシュキャンプを、児童生徒の発達段階等に配慮して小5～中1を対象としたプレティーンイングリッシュキャンプ(1泊2日)と、中2～高3を対象とした従来どおりのティーンイングリッシュキャンプ(2泊3日)に分けて開催



英語で角館を案内(高校生グローバルサマースクール)



平成27年度学力向上フォーラムにおける教育専門監の実践発表